

各 位

会 社 名 フルサト工業株式会社
 代 表 者 取締役社長 古里 龍平
 (コード番号：8087)
 問 合 せ 先 取締役管理本部長 藤井 武嗣
 (TEL：06-6946-9605)

第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、下記のとおり、第三者割当による自己株式の処分（以下「本自己株式処分」といいます。）を行うことについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 処分要領

(1) 処 分 期 日	平成 29 年 8 月 18 日 (予定)
(2) 処 分 株 式 数	当社普通株式 23,200 株
(3) 処 分 価 額	1 株につき 1,745 円
(4) 処 分 価 額 の 総 額	40,484,000 円
(5) 処 分 予 定 先	三井住友信託銀行株式会社 (信託口) (再信託受託先：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口))
(6) そ の 他	本自己株式処分については、金融商品取引法による有価証券通知書を提出しております。

2. 処分の目的及び理由

当社は、平成 29 年 5 月 8 日開催の取締役会において、当社取締役（社外取締役を除きます。以下も同様です。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットを享受するのみならず、株価下落リスクをも負担し、株価の上昇による利益・リスクを株主の皆様と共有することにより、中長期的な業績向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、信託を用いた新たな株式報酬制度（以下「本制度」といいます。）の導入を決議し、当社取締役に対する導入については平成 29 年 6 月 28 日開催の第 59 回定時株主総会において承認決議されました。

本制度の概要につきましては、平成 29 年 5 月 8 日付「当社取締役に対する株式報酬制度の導入に関するお知らせ」をご参照ください。

本自己株式処分は、本制度導入のために設定される信託の受託者である三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））に対して行うものであります。

処分数量につきましては、本制度導入に際し当社が制定する株式交付規程に基づき、信託期間中に当社取締役に交付すると見込まれる株式数に相当するものであり、その希薄化の規模は、平成 29 年 3 月 31 日現在の発行済株式総数 14,574,366 株に対し 0.16%、平成 29 年 3 月 31 日現在の総議決権個数 144,582 個に対する割合 0.16% となります。（いずれも、小数点第 3 位を四捨五入し、表記しています。）

当社としましては、本制度は当社取締役の報酬と当社株式価値の連動性を明確にし、中長期的には当社の企業価値向上に繋がるものと考えており、本自己株式処分による処分数量及び希薄化の規模は合理的であり、流通市場への影響は軽微であると判断しております。

信託契約の概要

名称	三井住友信託銀行株式会社（信託口）
委託者	当社
受託者	三井住友信託銀行株式会社 なお、三井住友信託銀行株式会社は平成 29 年 8 月 18 日（予定）に日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と特定包括信託契約を締結し、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社が再信託受託者となります。
受益者	当社取締役のうち受益者要件を満たす者
信託管理人	株式会社青山総合会計事務所
信託の種類	金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
信託契約日	平成 29 年 8 月 18 日（予定）
信託の期間	平成 29 年 8 月 18 日（予定）～平成 32 年 9 月末日（予定）
議決権行使の方針	不行使
信託の目的	株式交付規程に基づき当社株式を受益者へ交付すること

3. 払込金額の算定根拠及びその具体的内容

処分価額につきましては、最近の株価推移に鑑み、恣意性を排除した価額とするため、平成29年7月28日（取締役会決議日の直前営業日）の東京証券取引所における終値である1,745円といたしました。

当該価額については、取締役会決議日の直前営業日の直近1ヵ月間（平成29年6月29日～平成29年7月28日）の終値平均1,715円（円未満切捨て）からの乖離率が1.75%、直近3ヵ月間（平成29年5月1日～平成29年7月28日）の終値平均1,715円（円未満切捨て）からの乖離率が1.75%、あるいは直近6ヵ月間（平成29年1月30日～平成29年7月28日）の終値平均1,720円（円未満切捨て）からの乖離率が1.45%となっていることから、最近の平均株価からの乖離率を踏まえても合理的な価額となっております。（乖離率はいずれも小数点第3位を四捨五入し、表記しております）

上記を勘案した結果、本自己株式処分に係る処分価額は、割当予定先に特に有利な処分価額には該当しないものと判断しております。

また、取締役会に出席した監査役全員（3名、うち2名は社外監査役）が、割当予定先に特に有利な処分価額には該当しない旨の意見を表明しています。

4. 企業行動規範上の手続きに関する事項

本件第三者割当は、①希薄化率が25%未満であること、②支配株主の異動を伴うものではないことから、東京証券取引所の定める有価証券上場規程第432条に定める独立第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続きは要しません。

以 上